

〒039-2501

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94

七戸町立鷹山宇一記念美術館内

鷹山宇一記念美術館友の会

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

E-mail takayama-museum@town.shichinohe.aomori.jp

SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

語り継がれる展覧会を 美術館開館10周年記念

深い感動を与えた

星野富弘

生かされている喜びと感謝

花の詩画展

鷹山宇一記念美術館開館十周年記念事業の一つとして開催された「星野富弘花の詩画展」が8月21日、大盛況の内に終了しました。最終日は1,300人を超える入館者で職員はてんてこまい。うれしい悲鳴を上げていました。会期中の入館者は14,907人。何回も足を運んで下さった方も多く、感動のメッセージをたくさん頂きました。ありがとうございました。

また、星野展開催期間中には美術館開館以来の入館者が25万人を達成するなど嬉しいことが続きました。友の会会員も360人を超え、会員の皆様方のご支援とご協力に感謝申し上げます。

星野富弘先生
鷹山宇一記念美術館
詩画展ご挨拶



鷹山宇一記念美術館で詩画展を開けますことを嬉しく思っております。七戸町は美しい所と伺っております。行けないのがとても残念です。
この詩画展のために長い間準備をして来て下さいました皆様に、心から感謝申し上げます。

入院中、お見舞いの手紙に返事を書きたいと思い、文字を書く練習を始め、なんとか手紙が書けるようになりました。しかし、口にくわえた筆で、一枚の紙を文字で一杯にするのは大変な事で、どうしても余白が出来てしまいました。その余白に、枕元にあった花瓶の花を描いたのが、私の詩画という作品創りの始まりです。

短い詩のようなもの、どこにもある花などを組み合わせたのが私の作品ですが、文字と絵と、違うものを一枚の紙の中に違和感なく描くのは案外大変で、随分失敗をしました。失敗

▼テープカット風景(美術館正面玄関前にて)



を重ねて気がついたのは、絵も詩も少し欠けている方が良いという事でした。欠けているもの同志が助け合っ、てこそ良いものが生まれる、という事を教えられたのです。

考えて見れば私達一人一人も、それぞれどこか欠け

ているもの同志です。ですから、このことは詩画作品だけでなく、私たちの家庭や社会、国と国との関係でもいえるのではないのでしょうか。

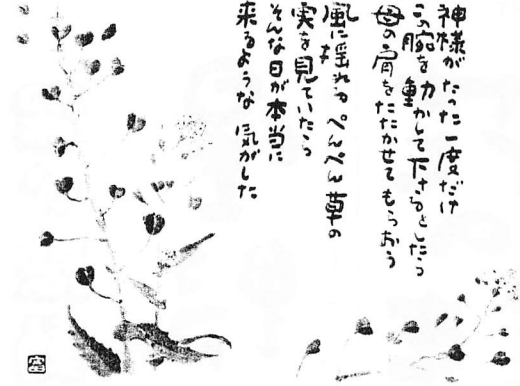
展示させて頂く百枚の詩画は、皆、私のかわい子供のようなものです。今日からの三十六日間、長い間ですが、どうぞよろしくお願い致します。

星野富弘

感動を与えた星野富弘展感想文 一部を「紹介致します」

「隣の方が杖を落とされ
た。拾って差しあげよう
としたらハンカチで目を
押さえ、しばらくそのま
までいらっしやいまし
た。星野さんの絵が詩が
胸をさして涙が止まらな
い様子でした。それを見
てからはどの絵も詩も素
直に胸に落ちて、涙があ
ふれてなりませんまし
た。きつと胸の奥の奥ま
でしみこんで涙が心の泉
となつていつまでもわか
だすことでしょう。」
(五所川原市・女性)

「友人3人と訪れさ
せて頂きましたが途
中から1人で回りま
した。声をかけて欲
しくなかったからで
す。ありがとうござ
いました。」
(青森市・女性)



神様がなつて一度だけ
この世に力を下すこと
した。胸をたたかせるも
う一つは、なつかしい
実を見たい。その
実を今日本当に
来るように心がけ
ました。

の足りなさがむな
しくもなりまし
た。私達に花と詩
で心を和ませて頂
きましてありがと
うございました。
常日頃の在り方に
反省させられまし
た。花に対する和
み方が充分に分か
らせていただきました。」
(十和田市・女性)

「星野さんの名前は知っ
ていてテレビなどで見た
事があつたけど、実際に
見てとても感動しまし
た。地球に生きているも
の全てつながっているん
じゃないか、人間ばかり
争つていて、おかしいと
思います。星野さんが言
うように私達は生かされ
ているのです。それにも
つと気付いて欲しいなつ
て思います。だから今回
のこの美術館でやった事
はムダにはならないので
はないでしょうか。」
(高校生)

「明日7月25日は、私の
離婚13周年記念日で…。
そんな時に夫婦愛を一つ
見つけてしまいました。
愛にもいろいろな形があ
りますが、もう一度愛を
見つけ出してみようかな
」



「星野さんの絵は前から
好きで、画集も著書も持
っています。原画を見
るのが初めてで是非来た
いと思つていました。一
つ一つに添えられた言葉
が身にしみます。忘れて
しまったことや気付かな
いでいることが何て多い
のでしょうか。ものを見る
目、感じる心が私は何て
乏しくなつてきているの
でしょうか…。いろんな
思いを抱きました。そし
て新たな勇気を頂戴して
帰れるような気がしまし
た。ありがとうございます。」
(弘前市・女性)

「…と思ひました。転勤
で近くなつたため、ちょ
こちよこ来たいと思つて
います。幸せという字と
辛いという字、似てます
よね…。心にぐつと来
ました。」
(下田町・女性)

「星野さんの詩画にふれ
早20年近くたちました。
初めて目にふれたものに
共感と感動で是非友人と
星野さんにお逢いしたい
と話していました。それ
から私達も母となり妻と
なり、変化してきたので
すが、あの頃の感動をま
た味わうことが出来て大
変うれしく思います。今
回直筆の絵を拝見できた
こと一生大切に心にしま
つておきたいと思いま
す。今後の星野さんの成
長をまた応援させて頂き
ます。」
(八戸市・女性)

「東京へ帰る途中、おじ
のすすめで立ち寄りまし
た。来館時には星野さん
の作品がどのようなもの
かも知らず、何気ない気
持ちでしたが、一つ一つ
の作品の深みが飾り気
のない言葉
でつづら
れ、純粋
な気持ち
を呼び起
こしてく
れたよう
に思いま
す。時に
は感動か
ら涙を誘
われそう



二重の葉が
今日と違う
白の葉が
はまた

「こんなにも心にしみ
る絵が描けるものなのか
と思うと共に、自分自身
を見直し、自分の生き方
・考え方が甘いものとし
か言えないと感じまし
た。忙しさにかこつけて
流れるままの時の過ごし
方を少し考え直したいも
のと思つております。い
い時間をありがとうございます。」
(七戸町・女性)

(5頁へ続きます。)



8/18開館以来の入館者25万人を達成！！

25万人目となった十和田市の主婦・澤頭淳子さんは、当美術館へは4度目、星野作品の大ファンでお盆の忙しさからホッと一息ついたところでのご来館でした。写真中央▼

平成6年8月1日の開館からちょうど10年という節目の年を迎えての25万人目となりました。地域の皆様、そして多くのファンに支えられての10年でした。これからも新たな気持ちで多くの方々をお迎えできるよう頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

8/21「星野富弘展」1日の入館者最高1,316人を記録。13日間の会期中、県内外から14,907人ものご来館いただきました！



◀モデル撮影会開会式
明を聞き入る参加者 講師の説

7/15オープニングセレブション

◀17日の初日を前に、美術館関係者等をお招きしてオープニングセレブションを開催しました。当日は、蝦名青森副知事をはじめとする9名が、テープカットを行うなど、参集した約80名が名が開幕を祝いました。

特別展
会期中の出来事から

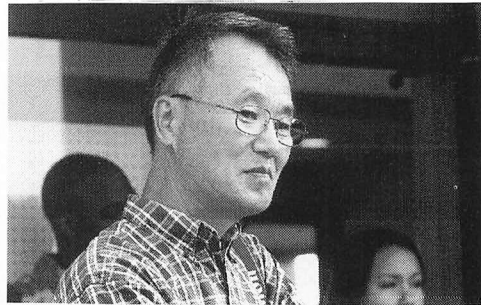
▼1万人目となったのは、十和田市出身で青森市在住の主婦・戸村尚子さん。「星野作品のファンでは是非特別展を見たいと思っていた」とのことで、ご主人と初めて来館されての出来事でした。右は青山浄晃財団理事長

8/15「星野富弘展」来館者1万人に！

「星野富弘花の詩画展」



「第64回国際写真サロン展」



▲講師に全日写連小野崎徹氏をお招きしました。

9/4全日本写真連盟青森本部主催「写真教室」写真愛好家約80名が参加しました。



▶粘土の型押し



▶乾燥中のサンプル



▶土の採取（六戸岡沼）



▶粘土は糸で切る

😊 美術館 アートクラブ 😊

【担当/曾根原牧子】

この秋最初のテーマは「挑戦、土を焼く一ふるさと七戸の大地から生み出すやきものづくりー」（全6回）。講師に浜中達男先生をお迎えして、素材である土を意識しながら「やきものって何だろう」と考えます。既製の土で形を造るだけではなく、七戸町周辺で採取した土や石のサンプル作り、七戸和田の土をもとにした粘土の型押しなど、土にまみれながら制作中です。



感動を与えた星野富弘展感想文II

「わたしは8才で絵はきれいならうでもないと思っていました。星野富弘さんの絵を見て絵には一つ一つかんじようが、心がこもっているんだなあと思いました。星野富弘さんへ、わたしの心はあなたの絵にとてもかんだうをかんにしました。いつまでもながいきをして絵をかいてください。」

(小学生)

「神様へのおもい、お母さんへの想い、お父さんへの想い。私も心が素直になってゆくようでした。以前から『鈴の鳴る道』など三冊を手元においてあります。疲れたときよく対面している富弘さんの作品たちです。今日は大変幸せな一日でした。」

(むつ市・女性)

「素直な気持ちが言葉と絵から伝わってきました。素直な気持ちは素晴らしい。自分は昨年両耳が聞こえなくなり仕事もやめ、主夫をしています。」

障害は神様からの授かりものだとはまだ思えませんが、何かしようと毎日考えています。生きているんですものね！星野さんありがとうございます。」

(南部町・男性)

「普段汚れてしまっている私の心も、ほんの少しだけですがキレイになった気がしました。一つひとつの詩を読むたびに自分とかぶさる事が多く、心にジンとききました。自分を見つめ直す事も出来てとても良かったです。」

(愛知県・女性)

「人間とは失うものが大きければ得るものも大きい、体の自由を失って、絵と詩によりもつともつと大きな自由を得た。富弘さんに今日の出会いを感謝します。」

(三沢市・男性)

「星野さんのことは学校の道徳の授業で習いました。口で絵や文字を書くということや、それ以上に動けないという不自由の中でも懸命に生きる姿

を知りました。星野さんの作品はどれも一つ一つやさしさのようなものが伝わるような気がしました。これからもたくさん作品を制作して下さい。」

(十和田市・中学生)

「友達から誘われて見に来ました。自分も障害を持つ主人がいて本人の気持ちも理解する事ができ、又、共に生きてゆくという気持ちを強く思いました。今日は心が洗われ素直にがんばろうという気持ちになりました。ありがとうございます。」

(青森市・女性)

「母の命がもう何日もつかという状態の中で見させて頂きました。自然の中の命ということを思い、胸がいつぱいになりました。よかったです。」

(八戸市・女性)

たくさんの感想文ありがとうございます。

わたしのおすすぬ美術館

益子参考館

濱田庄司の世界
戸館昭吉

民芸運動に初めて接したのは、昭和28年頃であったが、濱田庄司の作品に初めて接したのは、それから数年後、倉敷・大原美術館を訪れ、さらに陶器館を観るまで待たなければならなかった。

そこで濱田庄司、河井寛次郎、富本憲吉、バーナード・リーチの、それぞれ独立した陶芸の展示室で彼らの作品に対面し初めて、民芸運動の旗手達に本格的に接し、深く感動することとなった。

一人一人それぞれの特徴があり、独自の世界をもっているのが、濱田庄司の作品は、どこか大らかで、野趣の味わいが感じられるのであった。

益子の参考館での作品にもやはり同じような印象が強く、益子の山深いところでの製作の故もあるのかと思う次第である。

濱田庄司の愛用した登り窯を目前にして感慨深いものがあった。登り窯を見るのは初めてである。今にも、太く丸い眼鏡をかけて作務衣を着た先生が、そこに居られるのでは、と思われるのだった。

参考館は益子の窯元の立ち並ぶ中心街からやや離れた、国道二九四号線沿いにあり、北関東の豪農から移築した、堂々たる長屋門を入り、四号館まで入ると、氏の作品のみならず、

ず、収集した数千点のものぼる内外の工芸品が展示されている。

益子近在の庄屋を移築した萱葺きの四号館正面の床の間には、棟方志功の「無盡藏」と書いた軸がある。

「何でもかんでも集めてしまおうから無盡藏なのか」と問われて、「いや、盡く藏するものなしと読むのだ」と答えたという。

「京都で道をみつけ、イギリスで始まり、沖縄で学び、益子で育つた」と自ら語る濱田庄司の世界がそこにある。昭和53年1月5日、この地で83歳の生涯を終える。

益子参考館へは・・・

- 〒321-4217
栃木県芳賀郡益子町益子3388
 - Tel/Fax:0285-72-5300/0285-72-7533
 - 開館時間:9:30~17:00
(入館は16:30まで)
 - 休館日:月曜日(祝日は除く)
12月28日~1月4日 2月1日~2月末日
 - 入館料:大人 800円(700円)
小・中学生 400円(300円)
()内は20名以上の団体料金
 - 交通機関:①JR宇都宮駅 宮野橋より
東野バス益子行き
益子参考館前下車0分
②益子駅よりバスにて
益子参考館前下車0分
- ※お出かけの際には情報のご確認をおすすめします。

◆秋の研修旅行のご案内◆

◇くよみがえる四川文明◇

三星堆と金沙遺跡の秘宝展

◇生誕120年記念 竹久夢二展

同時開催 郷土の版画家 生誕90年 関野準一郎展

6月6日の総会において今年度第2回目の友の会
研修旅行が決定致しました。

来る11月23日(火・祝日) 青森県産業会館の「よ
みがえる四川文明」三星堆と金沙遺跡の秘宝展」と
青森市民美術展示館の「竹久夢二展」を訪ねます。
(前号でご案内した「七尾謙次郎展」は都合により
「竹久夢二展」の鑑賞に変更になりました。)

詳しくは、後日ハガキにてご案内します。



★美術館バスツアーのお知らせ★

中国・景德鎮千年の歴史展

美術館では、青森県立郷土館で開催される「景德鎮
千年の歴史展」鑑賞ツアー参加者を次のとおり募集して
おります。お早めにお申し込み下さい。

【日時】 11月2日(火)及び3日(水・祝日)

【場所】 青森県立郷土館

【募集人員】 両日とも40名(申込受付順)

【集合場所】 七戸中央公民館 午前9時

【参加料】 4,000円(入館料、昼食代、保
険料、交通費含む)

【申込締切】 両日とも10月20日(水)

【申込先】 鷹山宇一記念美術館

※前売券800円(当日1,000円)も取り扱っ
ています



皇帝が愛し、世界が陶
酔した「景德鎮」

中国江西省の景德鎮
は、陶磁器原料の純白の
粘土カオリンと燃料用の
松材にめぐまれ、唐時代
の末頃(10世紀)から白
の器に透らかな釉薬をか
けて焼く白磁の主産地と
して発展し、今日まで続
く大窯業地となっていま
す。

景德鎮の名品は歴代皇
帝を魅了し、明王朝(1
368〜1644)と清
王朝(1644〜191
1)には、皇帝専用金
(官金)がここに置か
れ、国家的な財力と技術
の粋を集めて極めて上質
で贅沢な陶磁器がつく
られました。その官金で磨
かれた技法は日本をほじ
め、アジア・欧州の陶磁
器文化にも多大な影響を
与えてきました。

本展では、宋代の皇帝
「真宗」の庇護のもとで
命名されてから千年とい
う節目を記念して、景德
鎮陶磁館所蔵の宋・元・
明・清から現代にいたる
1万2千点の作品の中から
厳選された名品120
余点を展示。華麗な陶磁
芸術の神髄が紹介されま
す。(本展チラシより引用)



「青花連枝牡丹花瓶」
元 (1271〜1368)

友の会会員登録の更新と
新規会員入会お誘いのお願

友の会会員の更新及び新規入会の手続を下さいま
した会員の皆様、誠にありがとうございました。今
後とも会員の皆様方に芸術・文化に一層親しんで頂
けるよう研修旅行、講演会などを企画してまいりま
すので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年度総会において、平成17年度からの会員の種
別、会費、特典が改正され、10月1日以降に手続の
新規会員、継続会員から適用になります。会員の種
別、会費、特典につきましては、次のとおりとなつ
ております。

手続は、美術館窓口、郵便振替用紙による方法に
て随時受け付けております。なお、申込日10月1日
以降の方は、翌年度末(3月31日)までとなります。

○一般会員(従来と変更ありません)
会費(個人) 年会費3千円
特典

①無料入館券3枚。会員証提示により入
館料2割引。

②ミュージアムグッズ1割引(除外品あ
り)

③研修会、講演会への招待、優待

④他美術館等への視察研修への優待参加

⑤会報の配布

○特別会員
会費(個人・法人) 年会費1万円
特典 一般会員特典に加えて

①会員証提示により個人・法人会員とも
本人及び同伴者1名まで無料入館

②新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員
会費(個人・法人) 年会費2万円
特典 一般会員特典に加えて

①会員証提示により個人・法人会員とも
本人及び同伴者3名まで無料入館

②新規加入の方に画集1冊贈呈

③特別展の都度、招待券を贈呈

★友の会会報10周年記
念号の発行について
友の会創立10周年記
念の会報は、一部カラ
印刷、10年の歩みの年
表を中心に第37号とし
て12月15日に発行の予
定です。

★合本発行のお知らせ
会報創刊第1号から
記念号までを1冊に合
本して有料頒布いたし
ます。(一部の号はコ
ピーとなります。)

・合本
1冊1,000円

・送料 500円

・申込期限 11月20日(土)

・発行予定 平成17年1月下旬

・申込先 美術館

◆編集後記◆

★2頁の星野展の感
想文は、本人の承諾
を求めずアンケート
から掲載しました。
御了承お願いいたし
ます。

★暑い暑いと言っ
ていた夏も過ぎ、芸
術の秋となりました。

秋と言えども味覚の秋
も楽しみます。いつ
か織田廣喜先生の
絵のようにおしゃれ
な赤い帽子の女性と
ワインなど、

いいなあ!

編集 E・T